

くみ上げられた湧き水＝飛騨市河合町元田で



河合「雪中酒」命の湧き水

天然の山麓 渡辺酒造店がくみ上げ

飛騨市河合町の特産品「雪中酒」造りに使うため、天然の山麓の湧き水をくむ作業が二十日、同町元田であった。同市古川町の酒蔵「渡辺酒造店」の蔵人たちが、ポンプでくみ上げた水をタンクに詰めていった。

雪中酒造りは、旧北飛騨商工会が始め、昨年同市河合町の第三セクター「飛騨ゆい」が引き継いだ事業で、今年で二十八回目。この日の作業では、千五百リットルの水をくんだ。

冬に天然峠周辺の山々から湧く水は雑菌が少なく、まろやかな味の酒に仕上がるといふ。仕込んだ酒を雪室で四カ月間熟成させ、七

月に雪と一緒に箱詰めして出荷する。涼しげな夏の贈答品として人気があり、今年は四千本の生産を予定している。

飛騨ゆいの中畑一社長は「昨シーズンの暖冬で湧き水が少ないのではと心配していたが、なんとか仕込みができた。おいしい酒になると思う」と話した。

雪中酒の注文は六月から、飛騨ゆいが運営する「飛騨かわいやまさち工房」の電話や、ネット通販などで受け付ける。七百二十リットルの一本入りが四万円、二本入りは六千五百円。(いずれも送料、税込み)。遠隔地は追加料金がかかる。◎やまさち工房 0577(65)26566

(瀬田貴嗣)